令和元年度　第1回江南区教育ミーティング　会議録概要

開催日時	令和元年7月25日（木）午後1時15分から午後2時45分まで
会　　場	江南区役所3階　302会議室
出 席 者	江南区自治協議会委員　28名（欠席2名） 教育委員：佐藤教育委員、渡邊教育委員 事 務 局：教育次長、教育総務課長補佐・外１名、学務課長、 学校支援課長補佐、地域教育推進課長、学校人事課長、 亀田地区公民館長、亀田図書館長、 江南区区教育支援センター所長・外3名 江南区役所：江南区副区長、地域総務課長補佐・外1名 傍 聴 者：　0名（報道0名）
議　　事	1　開会 2　教育委員挨拶（佐藤教育委員、渡邊教育委員） 3　意見交換（司会　江南区教育支援センター所長） （1）「令和元年度教育委員会の施策について」（高居教育次長による説明）
自治協委員	私が子どもの頃と比べて、いじめや不登校はかなり程度が上がったと思います。この原因は、子ども自体も親も学校も変わったと思うのですが、それがどのように変わったか、学校のほうでは何か分かっているところがあるのでしょうか。何かと引き換えに変わっていったのではないかと思っています。 もう一つ、不登校の話が出ましたが、不登校自体で生き延びている子どももいると思うのです。不登校を生きる理由にしてというか、生きるために不登校を選んでいる子どもがいると思うので、不登校をいちがいにだめなことなのだと決めつけないでもらったら、その子どもたちも救われると思います。これは私の感想です。
学校支援課	いじめの様子が、私どもが子どもの頃とかなり変わってきているという意見です。これについては、教育委員会も各学校でも細かく分析ができているわけではありません。ただ、子どもを取り巻く環境が、私たちが子どものころに比べて大きく変わっているのは間違いないと思います。 よく、三つの「間」がないという話があります。仲間、空間、時間。三つの「間」が昔に比べて無くなってきているのではないかと思います。子どもが多くの人たち、しかも異年齢の人たちと関わる機会が減ってきていて、友だちとのコミュニケーションをうまく取れない一因になっているのではないでしょうか。 もう一つは、情報化社会です。さまざまな情報が子どもたちに入ってきています。私たちが子どものころは予想もつかなかったような、スマートフォンなどを今の子どもたちが駆使して、全く離れた地区の子ども同士が大人の知らないところでつながっていたり、かつて無かったような新たないじめの形態も生まれてきています。そういった社会全体の変化が子どもに影響を与えているのではないかと考えました。 不登校という選択をすることで子ども自身が救われている場合があるということは、

おっしゃるとおりだと思います。個々の子どものケースによって対応は違いますし、原因も違いますので、その子どもが何に困っているのか、何が原因になっているのか、あるいは敢えて原因を探さないほうがいいのか、それは本当に一人一人の子どもに応じた対応をしていくべきだと、私どもは考えています。

自治協委員　　不登校のことが気になっていまして、早期発見という部分は、実際に、初期対応ガイドブックを職員に配布されているということですが、いろいろなパターンがあると思っています。早期発見という、何をきっかけに行けなくなるかというのは、どのように見極めをされているのかが一つです。

あと、外国語教育の充実で、ALTの授業回数を増やしたり専科教員の配置ということで、今年度から進んでやっているとのことですが、実際にALTの授業を受けて、子どもたちがどれだけ実際に英会話というか、会話が成立するくらいまで、小学校の期間は1年生から6年生までで、中学校の3年間を含めて、どの辺りまでを目指しているのか。私は小学校のコーディネーターをしているのですが、学校で見ていると、普段、あまり使うことがないので、授業では英語の授業を受けていたとしても、触れる機会が少ないと、なかなか上達していかないのではないかと感じるので、どのようにお考えになっているかお聞かせください。

学校支援課　　1点目の不登校の見極めという点ですが、初期対応ガイドブックでは、不登校のサインのキャッチという部分が書かれているので紹介します。不登校のサインとして、「表情がさえない」「遅刻や早退が増える」「頻繁に体の不調を訴える」、「保健室の利用が増えたりする」ということです。「成績が急に低下する」「体育の授業を見学したり、部活動を欠席したりが目立つ」「情緒不安定な様子が見られる」「一人で過ごすことが多い」「月曜日に欠席が多い、連休後や長期休業の前後に欠席が目立つ」です。

これがすべてではないと思うのですけれども、私どもが不登校のサインを早めにキャッチするための一つの例として紹介しています。もちろん、このとおりに行かない場合もあるので、やはり、小さな変化を周りの大人が見逃さないことが大事なことだと思います。

二つめの外国語教育に関してどこを目指しているかということです。今回、小学校では3年生、4年生に外国語活動、5年生、6年生に教科として外国語が位置づけられまして、5、6年生については教科書が来年から導入されることになっています。これは国のほうで学習指導要領の外国語ということが定められており、そこに教科の目標や目指すべきところが書いてあります。中学校も同様に学習指導要領に目指すべきところが書かれています。

日常生活の中で英語を使う機会はなかなかないので、その代わりとなるのがALTの存在であって、なかなか日本語が通じない相手に何とかして伝えたい、片言であってもいいから伝えたい、正式な文型でなくてもいいから伝えようとする、ジェスチャーなどを交えて伝えようとする、その意欲をALTや外国語の加配教員などを相手

にやることが、日ごろなかなか機会がない子どもたちに少しでも外国語を活用する機会を与えるチャンスにはなっているのではないかと感じています。

自治協委員　　不登校からひきこもりにつながっているような関係は、学校で把握しているのかどうか。小学校の低学年で不登校ということは、きっと家にいて、どなたか家族の方がいらっしゃると思うのですが、高学年とか中学生になると、保護者の方が仕事に出られて一人で家にいるということがきっと多くなるのではないかと思います。それが続くと、大人になってもひきこもりにつながってくるのではないかと思います。できれば低学年の内に、不登校からひきこもりにならないようなことを見極めるというか、学校で把握しているものか。もし、これは少し危ないという判断がなされたとき、どこかの機関につないでいるのかお聞かせ願えればと思います。

学校支援課　　不登校傾向にある、あるいは不登校の子どもが卒業後に引きこもりになるかどうかについて、市全体として、あるいは学校全体として追跡調査を公に行っているわけではありません。実際、卒業後にどのような状況であるかは、地域にまだ子どもたちが住んでいれば、学校によってはその状況が分かる場合があると思います。

不登校だった子どもイコールひきこもりというわけでも、その相関関係も分からない部分もありますので、一概には言えないと思います。

学校教育では、とにかく子どもたちが卒業するまでの間に学校に来ることができるような状況にする。先ほど、不登校を敢えて選択する、それが救いになっているというお話もありましたが、学校としては、児童生徒が学校にいる間に学校に行くことができるような状況にできるように努力をするという現状があります。

自治協委員　　卒業時はもちろん、何らかの形でどこかにつないでいただきたいことと、在学中、例えば、1週間に1回とか1か月に1回、不登校の子どもにお手紙を届けたり担任の先生が訪問しているけれども、本人が出てこないというのは、保護者とお話しして終わりなのか、そうすることによって世間との関わりが希薄になってくるおそれがあるのではないかということを察したときに、どういう対応を執られるのかをお聞きしたかったのです。

学校支援課　　実際に学校から会いに行ったときに本人に会える場合、会えない場合、さまざまなケースがあると思います。敢えてそのまま会わないで少し様子を見たほうがいい場合もあると思いますし、積極的に関わっていったほうがいい場合もあると思いますので、そこは本当に一人ひとりの子どもの状況によって違うと思います。当然、その後放っておくということはなく、何らかの世間との接点、社会との接点は、学校をはじめ周りの大人がつなごうとする努力を続けていくべきだと思います。

卒業するに当たり、その後、どこかの機関につなげていくということについては、おっしゃるとおりだと思います。そのときに、中学と高校、あるいは高校とそれ以降というのは、なかなか機関同士でつながるのは難しいので、あそこの家のあの子は中

学校のときはあまり学校に行っていなかったけれども、今はどうかなというように、地域の周りの皆さんが見守っていただけるとありがたいなと、話を伺って感じました。

自治協委員　　その情報を何らかの形で流せるようなシステムを作っていただきたいと思います。

自治協委員　　デジタル教材の活用についてお伺いします。これからの急激な社会の変容に対応するには、デジタル教材をうまく活用していくというのは避けて通れないことになっていくわけですけれども、ニュースでタブレット端末を使いながら授業を受けるということも見たことがありますが、新潟市の現状としてどこまで進んでいるのか、どこまで目指す予定なのか、お聞かせください。

学務課　　新潟市においては、すべての学校に 13 台、一部の学校に 16 台配置しています。近年中にすべての学校に 16 台を配置したいということで計画を立てています。ただ、国としては、3クラスに1クラス分の整備台数が必要であるという指針を示していますが、タブレットは非常に高いもので、市全体の整備となると、財政的な中で工夫しながら整備台数を増やしつつあり、これから増やしていこうと努力している状況です。

自治協委員　　昨年、インターネットを使った調べ学習に参加しました。私もパソコンを使って仕事をしていますが、検索して情報を見つけに行くのはこれからの時代にとても必須のことだけれど、検索して出てくるものは難しい漢字が並んでいたり、小学4年生とか高学年の子どもたちが読むには少し難しい情報がずらっと出てくるので、インターネットを活用することの便利さと、そこに子どもたちが追いつかないというか、少し不一致だということを感じています。図鑑などはふりがなが振ってあったりするので読めると思うのですが、検索してうまくその情報にたどり着けないということを感じています。先生も一人で 30 人とか見きれない部分もあると思うので、うまく使えるようになるといいなと思いますし、必要なことですが、インターネットにばかり行きすぎるとよくないなということを感じました。

不登校の話ですが、私も仕事柄、保護者の方のご相談に乗ることも多いのですが、保護者の意見として、学校に子どもが行けない、休みたいというときや学校で子どものトラブルが多いときに、学校から電話が来るのがものすごいプレッシャーになるという話を聞きます。また、学校に行けない日が何日か続くと、今日は休みますという連絡をすることがプレッシャーになるということです。学校を休むことが、逃げ道になって、安心して休める環境を用意してあげるということが必要になる時期も絶対にあります。保護者がそこに変にプレッシャーを負って学校に行かせなければということを抱えてしまうと、子どもの行き場がなくなってしまうので、保護者が子どもの気持ちを受け入れていけるような、安心して家庭で過ごせるような環境づくりはとても大事だと思います。

また、大人の役割と子ども同士の関わり合いの中で、子ども同士で注意し合うと

いうことが増えてくると、その関係性がうまく築けなくなってしまったりするので、大人の役割として、こういう場面があったら大人が介入するのだということを子どもたちにも知ってもらうということも大事ではないかと思います。

保育園などから小学校に上がるとき、子どもの良さを引き継ぎされましたけれど、学校に上がってからも、問題とか課題はもちろんですが、できるだけいいところを引き継いでほしいというのが、親としては思っています。

学校支援課　最初のインターネットにおける調べ学習ですが、学習の目的に応じて、あるいは学年の発達段階に応じて使っていくべきだというのは、おっしゃるとおりです。ネットの使い方、パソコンの使い方だけではなく、国語力などを高めていく必要があることは確かです。さらに分からない文字が出てきたら、友だちや先生に聞いて、そこで解決することもあるので、コミュニケーションも大事だと思います。

パソコンやタブレットはあくまでも道具なので、それを使いこなして何を考えたり何をまとめたりするかという部分が大事です。

学校を休んだときに学校からの電話がかえってプレッシャーになるという話はそのとおりであり、それが励みになる子どももいれば、それがプレッシャーになる子どももいるということは、私どもも肝に銘じておかなければなりません。

子ども同士で解決できることは子どもに任せたほうがいい場合もありますし、任せておくと、今度はお互いに悪いところを指摘し合って、より関係が悪くなるという場合もあるので、任せる部分と大人が適切に関わる部分の見極めは、本当に大切なことだと感じました。

子どものよいところを次に引き継いでいくというのは、周りの大人が子どもたちの良さをたくさん見つけ、それをまた周りに伝えていけたらいいと、改めて感じました。

議　事　（2）「保護者・地域・学校の連携について」（地域教育推進課長による説明）

自治協委員　◆自治協議会安心安全部会で作成した絵本「みんなにこにこ」の紹介

お配りしました絵本「みんなにこにこ」の作成の背景ですが、平成 30 年度の安心安全部会で、今年の取り組みについて話し合いをしたときに、江南区支え合いのしくみづくり会議の推進員をされていた方も委員の中におられ、助け合いとか支え合いというのはどうしても高齢者に目が行きがちだが、現役世代の方や子どもたちにどうやって周知していくかが課題の一つだという話をされました。そこで江南区には特産品をキャラクターにした親善大使があり、これを使って何か絵本でも作ろうということで話がまとまりました。

作成の過程ですが、絵本の基本コンセプト、伝える内容、作成のプロセス、配布方法、それから活用方法など、すべてにおいて部会のみんなで検討を重ねていきました。あらすじやシナリオについて、部会の中で上手な方がおられたので、大筋というか、アウトラインを考えてきていただき、次の部会以降、それをみんなで手直しを重ねていきながら作っていったということです。その途中には、亀田西小学校の読み聞かせのグループですとか、支え合いのしくみづくり会議のメンバーなどからも

	意見を聞き調整をしながら、ようやく、1年をかけて全員で完成したというところが本音かと思います。 絵本の内容ですが、基本のところは、なぜ困っている人を助けるのだろうかとか、なぜ互いに助け合うことが必要なのかを呼びかけるような内容になっております。巻末には、親子、家族でも一緒に話し合ったり考えたりするきっかけづくりのために、お家の方や子どもたちへのメッセージを、また新潟市の目指す地域像を載せてあります。 今年度5月に江南区内の小学校1年生全員に配布をしています。来年度の新1年生にも配布する予定です。また、市内の図書館や区内の保育園、小学校の図書館、ひまわりクラブ、金融機関などにもお願いして置いてもらっているところです。最近では、絵本の読み聞かせの方からもお声がけをいただいたり、これを指人形にして劇をやってみたいけれどもいいでしょうかという話も来ております。
地域教育推進課	学校支援課とともに、特に安心・安全のための見守りという点で、地域の皆様に私たちは支えていただいています。子どもたちが安心に登下校できているということから始まって、逆に、子どもたちがおじいちゃんのために何ができるかということまで、お互いに支え合うことの大事さを素直に絵本で感じ取れるような素晴らしいものができあがっていると思いました。早速、いろいろなところの読み聞かせボランティアに持っていったらとてもいいのになと感じました。 また、江南区の特産品を生かしていることもとても身近であり、それぞれの地域のものを全部入れているという、盛りだくさんなのに、分かりやすくシンプルであり、本当に素晴らしい絵本をご紹介いただき、ありがとうございました。
自治協委員	地域と学校パートナーシップ事業についてお伺いします。子どもの意識調査結果から、地域のこと（自然・歴史・産業など）にふれたり、調べたりする学習は好きですということで、「当てはまる」あるいは「やや当てはまる」を合計すると 76 パーセントほどになります。この中に、小学3年生になると、昔の暮らしという授業、6年生になると、日本の歴史が始まると聞いています。その中で、昔の暮らしであるとか日本の歴史とかを子どもたちに楽しく学習させるには、関係施設を利用することで効果が上がるような感じがします。例えば、自然・歴史・産業の中で、歴史のことで言えば、低学年であれば江南区の「郷土資料館」であるとか、高学年になると「まいぶんポート」あるいは「みなとぴあ」であるとか、こういうところに行って学習すると、子どもたちもとても喜びますし、大変何か印象に残っているように見受けられます。 そのようなことを、各学校で企画した場合に、どうしても交通手段の問題があり、バスを借りると非常にお金がかかります。それで断念している学校もあります。いろいろな形で捻出してこられる学校もたくさんあります。こういうことは同様にすべての学校がそういう取組みをしたいといった場合には、予算について、どのような状況になっているのか。何かやり方があるのかお尋ねします。

学校支援課	校外学習のためにバス等を利用する場合、例えば、スクールバスがあると、それを利用している学校もあると思いますし、大勢で民間のバスをチャーターする場合は、保護者からあらかじめお金を集めるなど、さまざまだと思います。それから、区ごとにスクールバスがあって、登下校の時間帯以外は校外学習等に利用することができることになっているので、効果的に使うといいのではないかと思います。いろいろケースがあって、一概にこうしているとは言えないと思います。
自治協委員	学校全員の子どもたちが行けるようにしてもらえる方法はないのか、ということで検討していただきたいと思っています。
学校支援課	南区にアグリパークという施設があり、申し込みをすればすべてバス代が出るようになっています。ほかの施設についてはあくまでも受益者負担という形で、児童の保護者からお金を集めてということになっています。ただ、一律どの学校にも、校外学習でバスを利用する場合、バスを使うためのお金は市のほうで何とかしますと言えるといいのですけれども、そういったご意見があったということで、伺っておきたいと思います。
自治協委員	横越地区にある、市が進めている地域包括ケア推進事業のモデルハウスである江南区地域の茶の間「お～うん」の運営をお手伝いしています。昨年度から横越小学校とお話しして、出張で地域の茶の間を学校の中でできたらいいなとコーディネーターと話しています。そうすることで、「お～うん」の場所を知ってもらい、学校の中に地域の方がより入って来やすくなり、地域の方と子どもたちや学校の先生方が交流する機会になったらということで、これから進めていきたいと思っています。 夏休み前に「お～うん」のチラシを横越小学校で配っていただいて、食事の提供もあり地域の中で安心して過ごせる居場所の一つとして、ぜひ、活用してくださいと保護者の方向けに開催日などご案内しています。夏休みに入って今日は2回目、毎週火木に開催していますが、火曜日は子どもたちが3人来て、今日も5人くらい来ていました。昨年もけっこう夏休みに利用してもらっていましたが、少しずつ子どもたちにも認知されてきて、地域の中で多世代が交流でき、高齢の方からうれしいという話があったので、これからも継続していきたいと思っています。
地域教育推進課	パートナーシップ事業の目的の一つに、いろいろな世代の皆さんとの交流があると思っています。ボランティアの皆さんは子どもたちと関わることで自分たちが元気をもらうのだという声もいただきます。子どもたちにとってみると、核家族化してなかなかベテランの方、シニアの方との交流がない中で、いろいろな考えに接することでコミュニケーション能力が広がったり、思いやりの精神が育ったりします。そういう機会が作られているということは大変ありがたいと思いますし、地域の茶の間あるいは認知症サポーター養成講座とか、さまざまな学校区でいろいろな工夫をしていらっしゃいます。ぜひ、そういう取組みが進んでいくことを期待しています。

自治協委員	学校・地域合同防災訓練で土曜日を小学校の登校日にして訓練をしたと聞いたことがありますが、例えば、日曜日や祝祭日は可能なのでしょうか。
地域教育推進課	土曜日だけではなく、日曜日、祝祭日の実施が可能かということですが、制度上は可能です。学校行事の中に位置づけて、例えば、登校日であるという形を学校で判断してもらえば可能になりますので、学校と地域でよく話し合いをしていただく必要があります。 ただ、なかなか難しいというお声をいただくのが中学校です。複数の小学校やコミュニティ協議会があってなかなか調整がつかないので、分散せざるをえないという声を聞くときもあります。地域の思いをしっかり学校に伝えていただき、学校は学校としてお受けできる部分とお受けできない部分をきちんと地域に話をされると思います。その中で、すぐ来月、再来月というわけにはいかないと思いますが、今後そのようにしていきませんかという話し合いは可能だと思っています。
議　事	4　教育委員所見
渡邊教育委員	はじめに、絵本を紹介していただき、本当に素晴らしいなと思いました。私も読み聞かせのボランティアをやっていますけれども、本当にプロの作品のようなできになっていて、キャラクターもとてもかわいらしくて、子どもたちに受け入れられるのではないかと感じました。今年は1年生の皆さんに配布されたということで、子どもたちも交通安全などの学びに役に立つのではないかと思います。また、世代間交流という話もありましたが、子どもたちの心を豊かに育てるためには、こういう絵本を通して知るきっかけになっていいのではないかと感じました。 皆さんの子どもたちに対する思いのご意見が活発に出ていて、小学校の中にお茶の間を整備するということもとてもいいなと私も感じました。3年生になると昔の暮らしや、6年生でと日本の歴史の勉強をするということで、子どもたちに施設見学をとおして学習の効果を上げてほしいというご意見、本当に私もそうだなと実感しております。豊かな自然があるのですが、この自然が交通の不便さをもたらすこともあります。そういうことを工夫して、子どもたちの豊かな心と学びにつながったらいいのではないかと、皆さんが一生懸命考えていらっしゃるのだなということを実感して、感動しました。ぜひ、子どもたちのために、また地域のために力を注いでいただければと思います。
佐藤教育委員	本当に江南区の皆様の熱意が感じられる 90 分だったと思っています。 今日、皆様と教育委員会の質疑応答で、実は話しきれていない部分がたくさんあります。私も教育委員になる前は、教育委員会って何をやっているのかなと思っていた一人なのですが、入ってみて、皆さん、細部にまで気を配りながら事業を構築したり、そのときに起こる事案に対して対応されています。教育委員会はいろいろなところで活躍しておりますので、仮に何か心配事があれば、今日、ここで新たなネットワークができましたから、この場に限らず、支援センターに直接でもいいと思いま

すが、ぜひ、今日のこのコミュニケーションをスタートとしてご質問いただければいいのではないかと思います。

区の教育ミーティングが始まってから数年たちますが、私が最初に教育委員になって参加したときに比べて、会が充実してきていると思います。

もう一つの中学校区教育ミーティングに参加されている皆様方の意識レベルがどんどん高くなっていて、地域をまとめようという気持ちが感じられています。

土曜日や日曜日に防災訓練をしようと思うのだけれどもというお話がありました。数年前は、小中一緒に合同の訓練という話が出たとすると、はなから否定するような方のほうが多かったのです。今は何とかして開催しようと、中学校区ごとの雰囲気が変わってきています。これは教育という場面での話なのですが、皆さんの地域にとっても非常に大きな変化だと感じています。今日は教育という方向から話をしていますけれども、皆様の地域にとっても素晴らしい財産になっているのだということをお伝えしたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。

議　　事

5　江南区自治協議会会長挨拶

自治協議会長

教員の皆さんの働き方改革も徐々に進んでいるようですし、学・社・民の融合についても、地域ごと、学校ごとにかなり浸透しているのではないかと思っています。

いじめ、不登校の問題についても、学校だけの問題ではなく，学校だけに依存するのでなく、家庭教育の充実が必要なのではないかという気がしています。家庭がしっかりしていれば、子どもたちも学校から帰ってから、いろいろな形態で話し合いができるのではないかと思います。親がおざなりになっていて、何でもかんでも学校にぶつけてしまう、これが一つの弊害ではないかという気もしています。少子高齢化の時代で、地域の子どもたちはこれからの宝ですから、委員の皆さんも各学校に、何らかの形で関わっているのではないかと思います。コーディネーターの方もおられればボランティアの方もおられます。やはり、PTAの必要性、これからもう一度考え直していただいて、学校だけに任せるのではなく、家庭教育の充実をしっかりとまた考えていただければと思います。

30 人の委員の皆さん、それぞれまた各地域に帰られまして、子どもたちのために発奮していただきたいと思います。

今日は、どうもありがとうございました。

6　閉会